

Editor for ASP.NET Web Forms

2018.04.12 更新

グレースィティ株式会社

目次

| | |
|---|-------|
| 製品の概要 | 3 |
| ComponentOne for ASP.NET Web Forms のヘルプ | 3 |
| 主な特長 | 4-5 |
| クイックスタート | 6 |
| 手順 1: コントロールのプロジェクトへの追加 | 6 |
| 手順 2: コントロールの外観のカスタマイズ | 6 |
| 手順 3: 実行時のコントロールの使用 | 6-8 |
| C1Editor ランタイム要素 | 9 |
| ユーザーインターフェース要素 | 9 |
| リボン | 9-10 |
| 「書式」タブ | 10-12 |
| 「挿入」タブ | 12-14 |
| テキストエディタ | 14-16 |
| パスセレクト | 16 |
| ツールバー | 16-17 |
| エディタのダイアログボックス | 17 |
| [テンプレートの適用]ダイアログボックス | 17-18 |
| [ソース HTML ドキュメントのクリーンアップ]ダイアログボックス | 18-19 |
| [検索と置換]ダイアログボックス | 19-20 |
| [ハイパーリンクの挿入]ダイアログボックス | 20-21 |
| [画像の挿入]／[画像の編集]ダイアログボックス | 21-22 |
| [メディアの挿入]ダイアログボックス | 22-23 |
| [特殊文字の挿入]ダイアログボックス | 23-24 |
| [テーブルの挿入]／[テーブルの編集]ダイアログボックス | 24-26 |
| [プレビュー]ダイアログボックス | 26 |
| [背景色の設定]ダイアログボックス | 26-27 |
| [前景色の設定]ダイアログボックス | 27-28 |
| [スペルチェッカ]ダイアログボックス | 28 |
| [タグの検証]ダイアログボックス | 28-29 |
| キーボードショートカット | 29-30 |
| C1Editor CSS セレクト | 31 |

| | |
|---|-------|
| クライアント側の機能 | 32 |
| クライアント側イベント | 32 |
| タスク別ヘルプ | 33 |
| 簡単なエディタツールバーの使用 | 33 |
| C1EditorExtender による BBCode の使用 | 33-34 |

製品の概要

パワフルな編集コントロール、**Editor for ASP.NET Web Forms** を使用すると、専門的知識を持たないユーザーにも、あらゆる Web ページ上の HTML コンテンツをオーサリングおよび管理できます。この What-You-See-is-What-You Get (WYSIWYG) エディタは、汎用テキストボックスを直感的な Microsoft Word スタイルのエディタに置き換えてくれます。

さまざまな編集モード(デザイン、ソースコード、および分割)を備えたこの多用途のツールにより、エンドユーザーは HTML コンテンツを希望するスタイルに編集するオプションが提供されます。見慣れたユーザーインターフェースには、上部にツールバーパネル領域、中央にテキストウィンドウ、および下部にツールバーパネル領域があります。カスタマイズ可能なリボンパネル、組み込みスペルチェッカ、および完全な JavaScript クライアント側オブジェクトモデルにより、コードでもコードなしでも、テキストを簡単に操作できます。

ComponentOne for ASP.NET Web Forms のヘルプ

ComponentOne for ASP.NET Web Forms の各コントロールで共通したトピック、アセンブリの追加、テーマの適用、クライアント側情報などについては「[ASP.NET Web Forms ユーザーガイド](#)」を参照してください。

主な特長

Editor for ASP.NET Web Forms の主な機能のいくつかを以下に示します。

- **Microsoft Office リボンスタイル UI**

エディタは Microsoft Office スタイルのリボンインタフェースを実装しています。リボンは、関連する各コマンドを一連のタブの下に編成しているため、ユーザーはメニューの階層を移動しなくても、エディタのさまざまな機能を簡単に探索できます。

- **組み込みスペルチェッカ**

スペルチェック機能が組み込みスペルチェッカによって提供されます。エンドユーザーは、〈チェック〉ボタンを押すだけで、Microsoft Word と同様の入力に応じたスペルチェック(コンテキストメニューに赤い波線の下線とスペル候補を表示)をすぐに利用できます。

- **スペルチェッカーのカスタマイズ**

SpellCheckerのIgnoreOptions プロパティを使用して、組み込みのスペルチェッカーが提供するスペルチェック機能性をカスタマイズできます。このプロパティは、スペルチェック中に単語を無視するかどうかを決定するフラグを指定するのに役立ちます。

- **ツールバーのセットの選択**

Common、EditorMode、Formatting、HTMLElements、Style、および TableEditing ツールバーから選択して、必要なツールバーのみ表示するようにエディタをカスタマイズします。

- **ドッキング可能なフローティングツールバー**

エンドユーザーは、ドッキング可能なフローティングツールバーを使用して、特定のツールバーとより緊密に作業するように選択できます。実行するには、単にツールバーをドッキングされたパネル領域から選択して、テキストウィンドウ領域にドラッグします。

- **複数言語サポート**

統合されたスペルチェッカは、英語、オランダ語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、およびスペイン語など、複数の言語をサポートします。

- **テーマ**

スマートタグをクリックするだけで、6種類のプレミアムテーマ(Arctic、Midnight、Aristo、Rocket、Cobalt、および Sterling)のいずれかを選択して外観を変更します。オプションとして、jQuery UI からThemeRoller を使用してカスタマイズしたテーマを作成します。

- **高度な書式設定**

エディタは標準の TextBox コントロールより高度な書式機能を提供します。これらの書式機能には、サイズ、色、スタイル、太字、斜体などが含まれます。その他の高度な書式機能には、配置、インデント、および箇条書きが含まれます。

- **クロスブラウザ対応**

IE、Firefox、Safari、Chrome、Operaなどの主要なブラウザをサポートしています。

- **カスタマイズ可能なディクショナリファイル**

C1SpellChecker ディクショナリエディタで、ディクショナリファイル(.dct)を作成および管理して、単語をメインディクショナリに追加するか、新規ディクショナリを作成します。

- **デザイン時のカスタマイズ**

プロパティビルダーでは、コードを何も記述することなく C1Editor の外観および動作を変更するなど、簡単なカスタマイズを行えます。

- **状況依存のメニュー**

右クリックを使用して、テキストをすばやく切り取り、コピー、または貼り付けるコンテキストメニューをサポート。表内をクリックして、行の挿入、列の削除、セルの分割などを体験するその他のコンテキストメニューをサポート。

- **クリップボードのサポート**

エディタは、キーボードショートカットを提供し、テキストをすばやく編集したり、[Ctrl]+[C]の組み合わせを使用してテキストをコピーできるようにするなど、ユーザーエクスペリエンスを拡張します。

- **Document Object Model ノードを選択するパスセクタ**

パスセクタは、現在のカーソル位置に HTML タグ階層を表示します。パスセクタ内のタグを選択して、選択範囲を変更します。たとえば、エディタ内の全ノードを選択するには、パスセクタ内の `<body>` 要素をクリックします。

- **CSS のサポート**

CSS (Cascading Style Sheet) のスタイルを使用して、カスタムスキンを定義します。

クイックスタート

Editor for ASP.NET Web Formsクイックスタートでは、**C1Editor**コントロールを使用する Web フォームの作成について紹介します。以下の各手順では、C1Editor コントロールをプロジェクトに追加し、デザイナーを使ってコントロールの外観をカスタマイズして、アプリケーションを実行します。まず、新しい ASP.NET Web アプリケーションを作成して、以下の手順を実行します。

手順 1: コントロールのプロジェクトへの追加

このクイックスタートの最初の手順では、ASP.NET Web アプリケーションを作成して、**C1Editor** コントロールを Web ページに追加します。

1. ASP.NET プロジェクトを作成します。
2. 「**デザイン**」タブをクリックして、デザインビューに切り替えます。
3. ツールボックスで、**C1Editor** をダブルクリックします。プロジェクトに **C1Editor** コントロールが表示されます。

次の手順では、デザインビューで **C1Editor** コントロールの外観をカスタマイズします。

手順 2: コントロールの外観のカスタマイズ

このクイックスタートの前の手順では、ASP.NET Web アプリケーションを作成して、**C1Editor**を Web ページに追加しました。この手順では、デザインビューで**C1Editor**コントロールの外観をカスタマイズします。

1. **C1Editor** コントロールを右クリックしてそのコンテキストメニューを開き、[**プロパティ**]を選択します。プロパティ ウィンドウが開き、**C1Editor**のプロパティがフォーカス状態になります。
2. **プロパティウィンドウ**で、次の各タスクを実行します。
 - **Height**プロパティを「**400px**」に設定します。
 - **Theme**プロパティを **cobalt** に設定します。

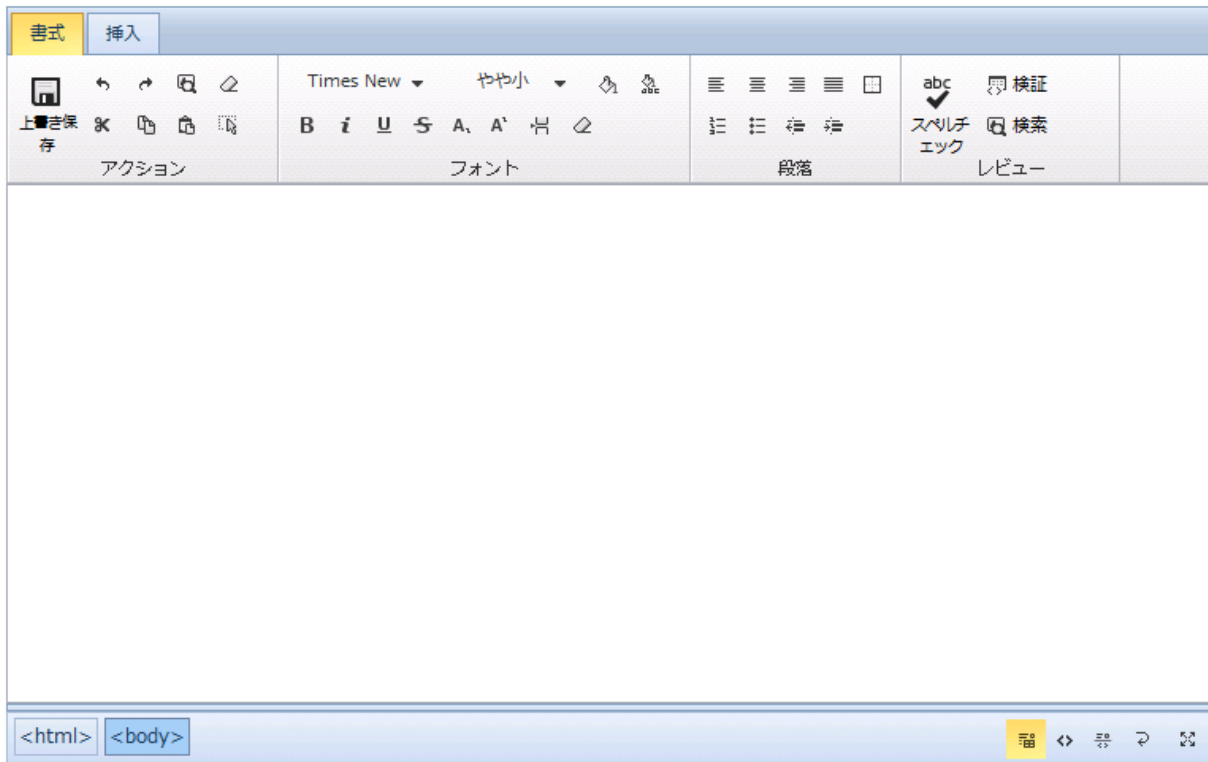
次の手順では、プロジェクトをビルドして、**C1Editor**のランタイム機能のいくつかを例示します。

手順 3: 実行時のコントロールの使用

このクイックスタートの前の手順では、**C1Editor**コントロールの外観をカスタマイズしました。この手順では、プロジェクトを実行して、**C1Editor**のランタイム機能のいくつかを探索します。

1. [F5]を押して、プロジェクトをビルドします。実行時に、**C1Editor**は次のような表示になります。

Editor for ASP.NET Web Forms

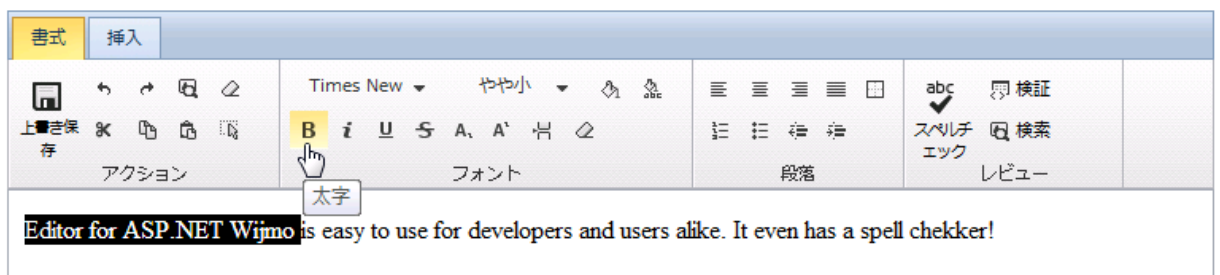


2. 以下のテキストをコピーして **C1Editor**のテキストエディタに貼り付けます。

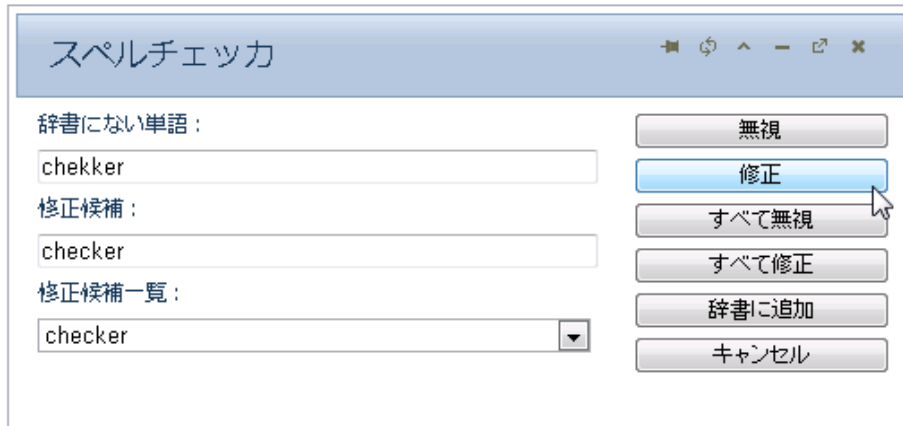
Editor for ASP.NET Web Forms is easy to use for developers and users alike. It even has a spell checker!

3. テキストを編集するには、以下の手順を実行します。



- **Editor for ASP.NET Web Forms** を選択して、**<太字>**ボタン **B** をクリックします。



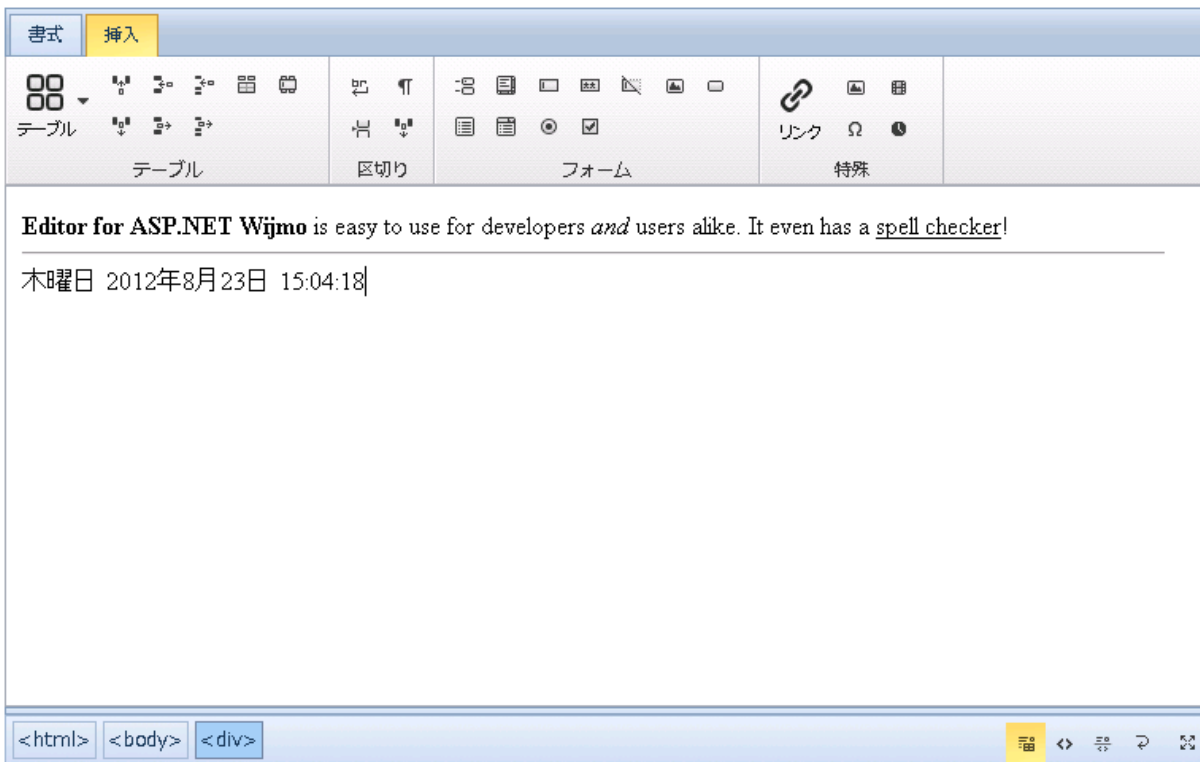
- 「and」を選択して、**<斜体>**ボタン **i** をクリックします。
 - 「spell checker」を選択して、**<下線>**ボタン **U** をクリックします。
4. **<スペルチェック>**ボタンをクリックして、スペルチェックを初期化します。**C1Editor**がスペルチェックを実行し、**[スペルチェッカ]ダイアログボックス**が開きます。
 5. **<修正>**をクリックして、スペルミスした単語(「checker」)を正しい単語(「checker」)に置き換えます。



警告ボックスが開き、スペルチェックが完了したことを知らせます。

6. **OK** をクリックして、警告ボックスを閉じます。[**スペルチェッカ**] ダイアログボックスも閉じます。
7. 「**挿入**」タブをクリックします。
8. カーソルをテキストの後ろに挿入して、<横線の挿入>ボタン  をクリックします。
テキストのすぐ下に、横線が表示されます。
9. <日付と時刻>  ボタンをクリックします。
横線のすぐ下に、現在の日付が表示されます。

おめでとうございます！ **Editor for ASP.NET Web Forms** クイックスタートの3つの手順がすべて正常に完了しました。このクイックスタートでは、**C1Editor** コントロールをプロジェクトに追加し、その外観を編集して、ランタイム機能のいくつかの使用方法について学びました。完成したプロジェクトは次のような表示になります。



C1Editor ランタイム要素

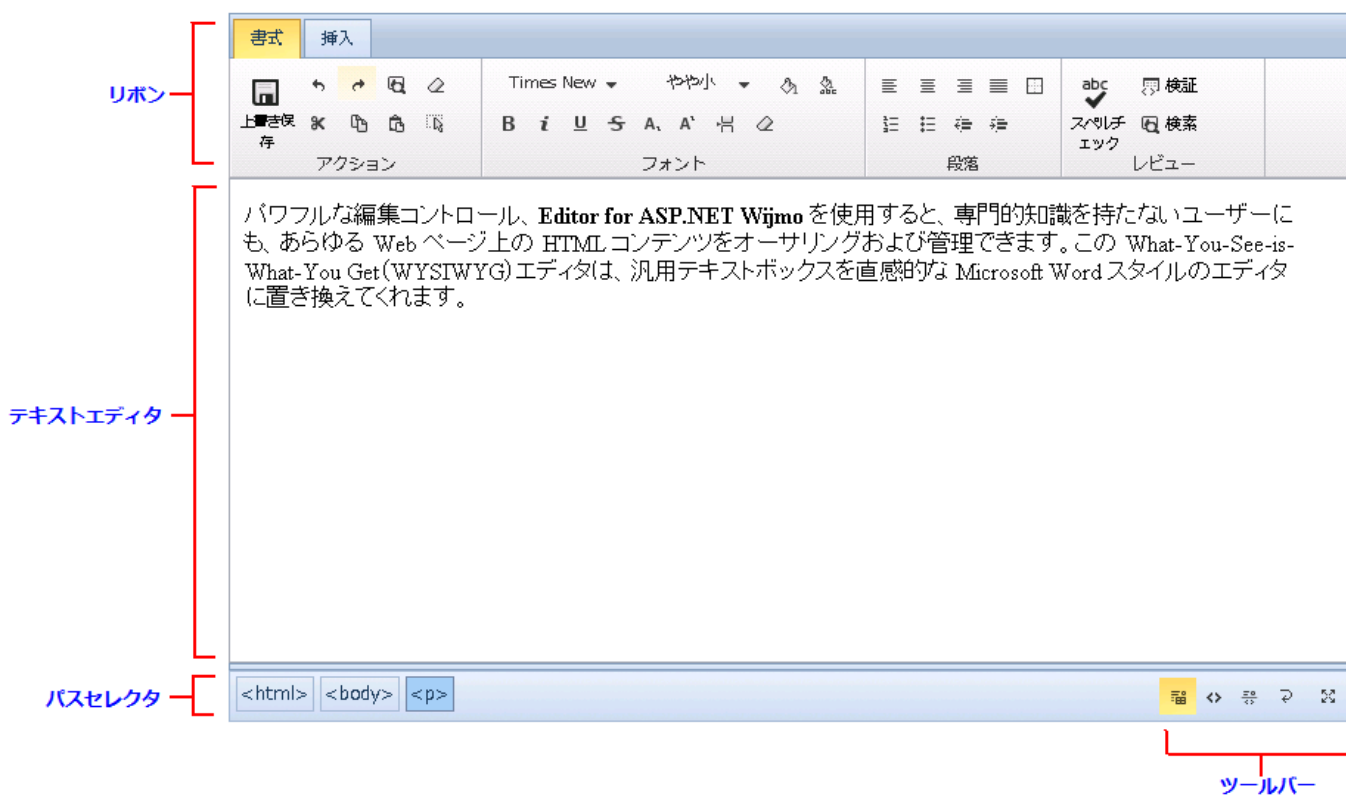
以下の各トピックでは、C1Editorコントロールのランタイム環境に関する情報を提供します。

ユーザーインターフェース要素

C1Editorコントロールのユーザーインターフェースは、以下の4つの領域で構成されます。

- リボン
- テキストエディタ
- パスセクタ
- ツールバー

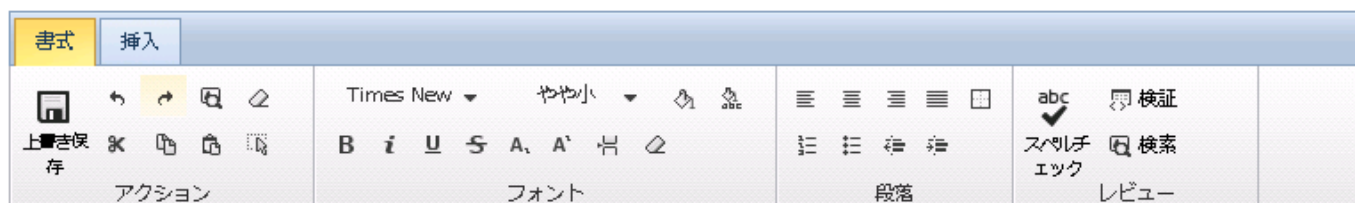
C1Editorコントロールの各領域は次の画面のようになります。



リボン

C1Editorコントロールのリボンインターフェースにより、ユーザーは、メニューの階層を移動しなくても、コマンドを探索できます。リボンインターフェースは、ボタンやドロップダウンリストなどのインターフェース要素を含むタブ付きパネルです。これらのインターフェース要素は、相互に関係するか関連するコマンドのグループにまとめられて、次に、類似のエディタタスクを一元管理する一連のタブに配列されます。

以下の画面は、C1Editorリボンインターフェースを示します。

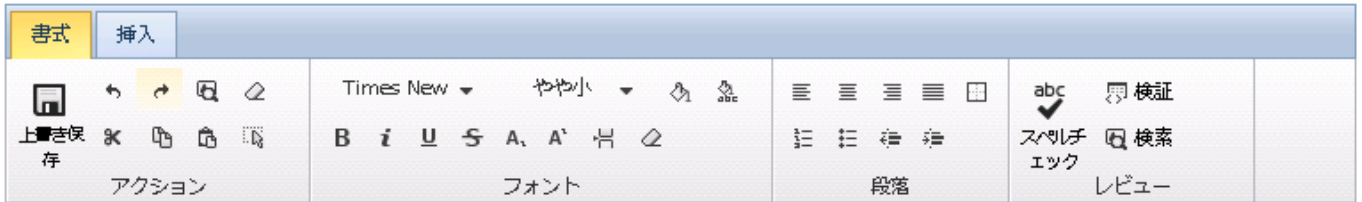


C1Editorのリボンには、「書式」と「挿入」の2つのタブがあります。以下の各トピックでは、各タブとそのコマンドグループについて説明します。

「書式」タブ

「書式」タブには、テキストエディタのコンテンツの書式設定に使用できるコマンドグループが含まれます。「書式」タブのすぐ下には、「アクション」、「フォント」、「段落」、および「レビュー」の4つのグループがあり、それぞれ、密接に関連するタスクを格納します。










次の画面は、「書式」タブに関連付けられたグループとボタンを示します。



以下の各セクションでは、各グループのコマンドについて説明します。


「アクション」グループ

「アクション」グループのコマンドは、ドキュメントの保存や直前のアクションを元に戻す操作など、一般的なアクションを実行するために使用できます。下表に、「アクション」グループのコマンドについて説明します。

| ボタン | 名前 | 説明 |
|---|---------|---|
|  | 上書き保存 | アプリケーションが Text プロパティを使用して C1Editor コントロールからコンテンツを取得する Web サーバーへのポストバックを発生させます。その後、コントロールは、ユーザーの変更の保存操作と一致するアクションを実行します。 |
|  | 元に戻す | 別の[元に戻す]を除き、ドキュメントに対して最も新しく実行された操作を消去して、古い状態に戻します。[元に戻す]操作を無効にするには、 Redo コマンドを使用します。 |
|  | やり直し | Undo コマンドを無効にするか、バッファをより現在の状態に進めます。 |
|  | プレビュー | 印刷の[プレビュー]ダイアログボックス[プレビュー]ダイアログボックス)を参照)を開きます。ここで、ユーザーがプレビューウィンドウサイズを選択して C1Editor のコンテンツを印刷できます。 |
|  | クリーンアップ | [ソース HTML ドキュメントのクリーンアップ]ダイアログボックス(ソース HTML ドキュメントのクリーンアップ]ダイアログボックス)を参照)を開きます。ここで、ユーザーは Microsoft Word のタグをドキュメントから削除できます。 |
|  | 切り取り | 元のソーステキストを削除してクリップボードに置きます。 |
|  | コピー | 選択されたテキストをクリップボードにコピーします。 |
|  | 貼り付け | テキストをクリップボードから貼り付けます。 |
|  | すべて選択 | テキストウィンドウ内のすべてのコンテンツを選択します。 |






「フォント」グループ





「フォント」グループの下のコマンドは、フォント設定の操作に使用できます。下の表で、「フォント」グループの各コマンドについて説明します。

| ボタン | 名前 | 説明 |
|---|---------|--|
|  | フォント名 | フォントスタイルを選択できます。[フォント]ドロップダウンリストには、Arial、Courier New、Garamond、Tahoma、Times、Verdana、Wingdings が含まれます。 |
|  | フォントサイズ | テキストのサイズを変更します。[サイズ]コンボボックスには最小、小、やや小、中、やや大、大、最大が含まれます。 |
|  | 背景色 | [背景色の設定]ダイアログボックス([背景色の設定]ダイアログボックスを参照)を表示します。ここで、ユーザーは背景色を選択できます。色は、後続の入力または選択されたテキスト範囲に適用できます。 |
|  | フォント色 | [前景色の設定]ダイアログボックス([前景色の設定]ダイアログボックスを参照)を表示します。ここで、ユーザーはテキスト色を選択できます。色は、後続の出力または選択されたテキスト範囲に適用できます。 |
|  | 太字 | タグを使用してテキストを周りのテキストより濃い色にし、テキストを強調します。 |
|  | イタリック体 | タグを使用して斜体書式を適用し、テキストを強調します。 |
|  | 下線 | <u>タグを使用して、テキストのすぐ下にラインを追加します。 |
|  | 取り消し線 | <strike>タグを使用して、テキストの中央に横線を追加します。 |
|  | 下付き | <sub>タグを使用して、テキストを通常の活字より小さく表示し、テキストをベースラインより少し下に設定します。 |
|  | 上付き | <sup>タグを使用して、テキストを通常の活字より小さく表示し、テキストをベースラインより少し上に設定します。 |
|  | テンプレート | [テンプレートの適用]ダイアログボックス([テンプレートの適用]ダイアログボックスを参照)を開きます。ここで、ユーザーはテンプレートを追加、削除、および保存できます。 |
|  | 書式の削除 | 現在選択されているテキストの書式を削除します。 |

段落




「段落」グループ内の各コマンドは、段落設定の操作に使用できます。下の表で、「段落」グループの各コマンドについて説明します。

| ボタン | 名前 | 説明 |
|---|------|---|
|  | 左揃え | テキストをページの左側に配置して、左余白に詰めます。この場合、テキストの右側は不揃いに表示されます。 |
|  | 中央揃え | テキストをページの中央に配置します。テキストの各行は左余白と右余白から等距離に配置されます。 |
|  | 右揃え | テキストをページの右側に配置して、テキストを右余白に詰めます。 |
|  | 両端揃え | テキストを右と左余白の両方に配置します。両端揃えにしたテキストは、両余白に沿って平らになりますが、各単語は、語間を埋めるように広がります。このタイプの書式は、Web ブラウザサポートに制約されます。 |
|  | 枠 | 枠を現在選択されているテキストに適用します。 |

| | | |
|---|---------|--|
|  | 番号付きリスト | テキストを番号付きリストに書式設定します。順序づけられたリスト(数字または英数字)は、リスト項目の順番が意味を持つことを示します。 |
|  | 箇条書きリスト | テキストを順序付けられていないリストに書式設定します。順序づけられていないリスト(または箇条書きリスト)は、リスト項目の順序が意味を持たないことを示します。 |
|  | インデント解除 | テキストのインデントを左に戻します。この書式は、テキストのコンテンツが前にインデントされていた場合のみ適用されます。 |
|  | インデント | テキストをさらに右方向に配置して、周りのテキストから区別します。 |

「レビュー」グループ

「レビュー」グループの下の各コマンドは、現在のドキュメントの見直しに使用できます。下の表で、「レビュー」グループの各コマンドについて説明します。

| ボタン | 名前 | 説明 |
|---|---------|---|
|  | スペルチェック | 現在のドキュメントのスペルチェックをアクティブ化します。詳細については、「 [スペルチェック]ダイアログボックス 」を参照してください。 |
|  | 検証 | [タグの検証] ダイアログボックスを開きます。詳細については、「 [タグの検証]ダイアログボックス 」を参照してください。 |
|  | 検索 | [検索と置換] ダイアログボックスを開きます。ここで、ユーザーは特定の文字列を検索して、必要に応じて、それらの文字列を置換できます。 |





「挿入」タブ






「挿入」タブには、エンドユーザーが、画像や段落区切りなどの項目をテキストエディタに挿入できるコマンドのグループが含まれます。「書式」タブのすぐ下には、「テーブル」、「区切り」、「フォーム」、および「特殊」の4つのグループがあり、それぞれ、密接に関連するタスクを格納します。

以下の各セクションでは、各グループのコマンドについて説明します。

「テーブル」グループ





「テーブル」グループの下の各コマンドは、テーブルの追加と操作に使用できます。下の表で、「テーブル」グループの各コマンドについて説明します。

| ボタン | 名前 | 説明 |
|---|-------|---|
|  | テーブル | ドロップダウン矢印をクリックすると、テーブルの挿入か、既存のテーブルの編集のいずれかを選択できます。詳細については、 [テーブルの挿入] / [テーブルの編集]ダイアログボックス 」を参照してください。 |
|  | 列の挿入 | 列をテーブルに挿入します。この書式は、テーブルが追加されていた場合のみ適用されます。 |
|  | 行の挿入 | 行をテーブルに挿入します。この書式は、テーブルが追加されていた場合のみ適用されます。 |
|  | セルの挿入 | セルをテーブルに挿入します。この書式は、テーブルが追加されていた場合のみ適用されます。 |

| | | |
|---|-------|---|
|  | 行の削除 | 現在のカーソル位置にある行を削除します。この書式は、行がすでに追加されていた場合にのみ適用されます。 |
|  | 列の削除 | 現在のカーソル位置にある列を削除します。この書式は、列がすでに追加されていた場合にのみ適用されます。 |
|  | セルの削除 | 現在のカーソル位置にあるセルを削除します。この書式は、セルがすでに追加されていた場合にのみ適用されます。 |
|  | セルの分割 | テーブル内の1つのセルを2つのセルに分割します。この書式は、テーブルがドキュメントに追加されている場合にのみ適用されます。 |
|  | セルの結合 | テーブル内の2つのセルをマージします。この書式は、テーブルがドキュメントに追加されている場合にのみ適用されます。 |










「区切り」グループ

「区切り」グループの下の各コマンドは、各種の区切りをドキュメントに追加するために使用できます。下の表で、「区切り」グループの各コマンドについて説明します。

| ボタン | 名前 | 説明 |
|---|-----------|--|
|  | 区切りの挿入 | 改行をドキュメントの現在のカーソル位置に挿入します。 |
|  | パラグラフの挿入 | ドキュメントの現在のカーソル位置に、段落を挿入します。 |
|  | 印刷改ページの挿入 | ドキュメントの現在のカーソル位置に、改ページを挿入します。改ページの下コンテンツは、別ページに印刷されます。 |
|  | 横線の挿入 | ドキュメントの現在のカーソル位置に、横線ルールを挿入します。 |

「フォーム」グループ






「フォーム」グループの下の各コマンドは、各種のフォームコントロールをドキュメントに追加するために使用できます。下の表で、「フォーム」グループの各コマンドについて説明します。

| ボタン | 名前 | 説明 |
|---|------------|--|
|  | フォーム | <form> タグを挿入します。 |
|  | テキスト領域 | テキスト領域を4行の高さで挿入します。 |
|  | テキストボックス | テキストボックスを挿入します。高さとは調整可能です。 |
|  | パスワードフィールド | パスワードフィールド入力ボックスを挿入します。このボックスに入力された情報はすべて、アスタリスクに置き換えられます。 |
|  | 画像ボタン | タグを挿入します。SRC 属性は、ソースコード編集モードで編集できます。 |
|  | ボタン | 現在のカーソル位置に、ボタンを挿入します。 |
|  | リストボックス | リストボックスを挿入します。高さとは調整可能です。 |
|  | ドロップダウンリスト | ドロップダウンボックスを挿入します。幅は調整可能です。 |
|  | ラジオボタン | ラベル付きのラジオボックスを挿入します。 |

| | | |
|-------------------------------------|----------|-----------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> | チェックボックス | ラベル付きのチェックボックスを挿入します。 |
|-------------------------------------|----------|-----------------------|

「特殊」グループ

「特殊」グループの下の各コマンドは、リンクとマルチメディア項目をドキュメントに追加するために使用できます。下の表で、「特殊」グループの各コマンドについて説明します。

| ボタン | 名前 | 説明 |
|---|----------|--|
|  リンク | リンク | [ハイパーリンクの挿入]ダイアログボックス [ハイパーリンクの挿入]ダイアログボックス)を参照)を開きます。ここで、ユーザーは、ハイパーリンクの URL の挿入、ハイパーリンクの HTML コードの表示、CSS テキストを入力して検査対象の DOM 要素にスタイルを適用できます。 |
|  | 画像ブラウザ | [画像の挿入]ダイアログボックス、または[画像の編集]ダイアログボックス ([画像の挿入]／[画像の編集]ダイアログボックスを参照)を開きます。ここで、ユーザーは、画像ソースの指定、画像のテキスト／高さ／幅の変更、CSS テキストを入力して検証対象の DOM 要素にスタイルに適用する操作ができます。 |
|  | メディア | [メディアの挿入]ダイアログボックス ([メディアの挿入]ダイアログボックスを参照)を開きます。ここで、ユーザーは、メディアソースの指定、テキスト／幅／高さの変更ができます。 |
|  | 特殊文字の挿入 | [特殊文字の挿入]ダイアログボックス ([特殊文字の挿入]ダイアログボックスを参照)を開きます。ここで、ユーザーは ® や ™ などの特殊文字とシンボルを挿入できます。 |
|  | 日付と時刻の挿入 | 現在のカーソル位置に、現在の日付と時刻を挿入します。 |

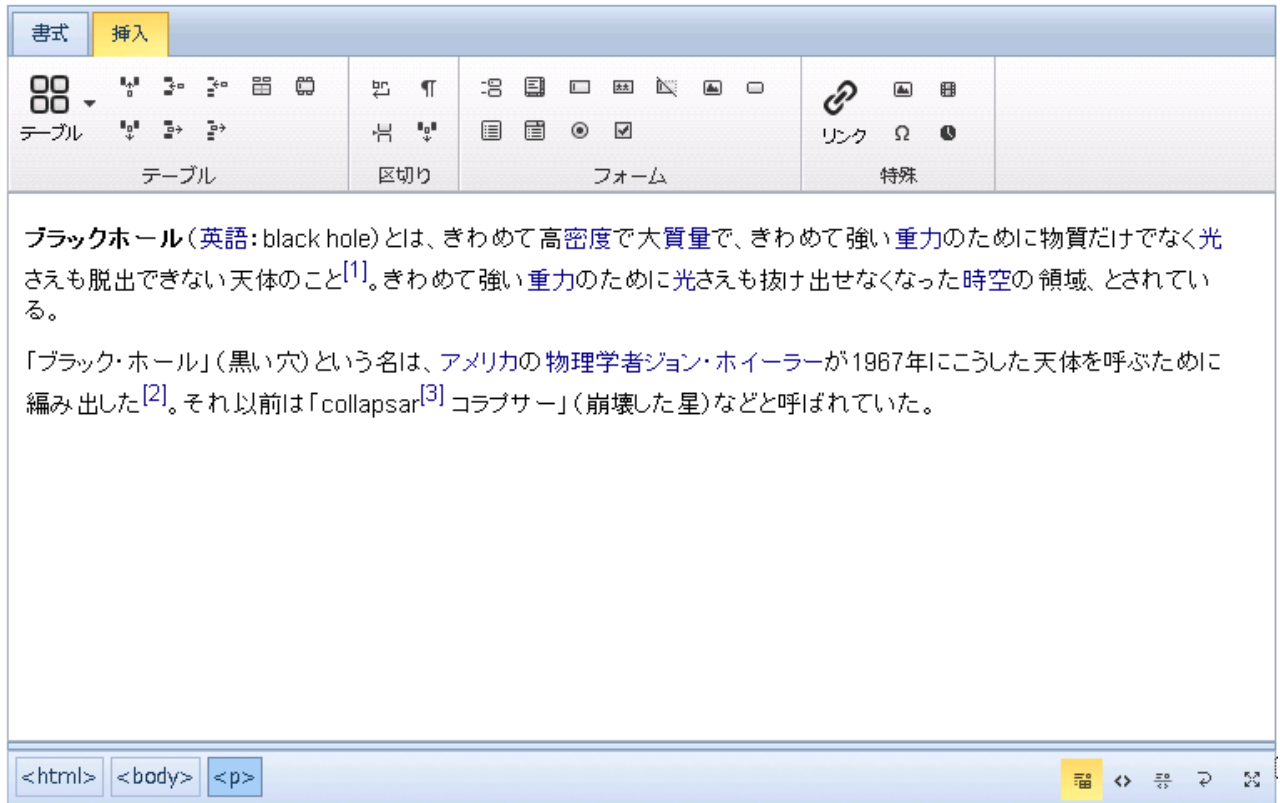
テキストエディタ

C1Editorコントロールのテキストエディタは、リッチテキストの作成に使用されます。テキストエディタを次の3つのビューの1つに設定できます。

- **デザインビュー**

このビューは、テキストエディタのコンテンツを What-You-See-Is-What-You-Get (WYSIWYG) 書式で表示します。公開または印刷時のコンテンツの外観のリアルタイムシミュレーションを提供します。

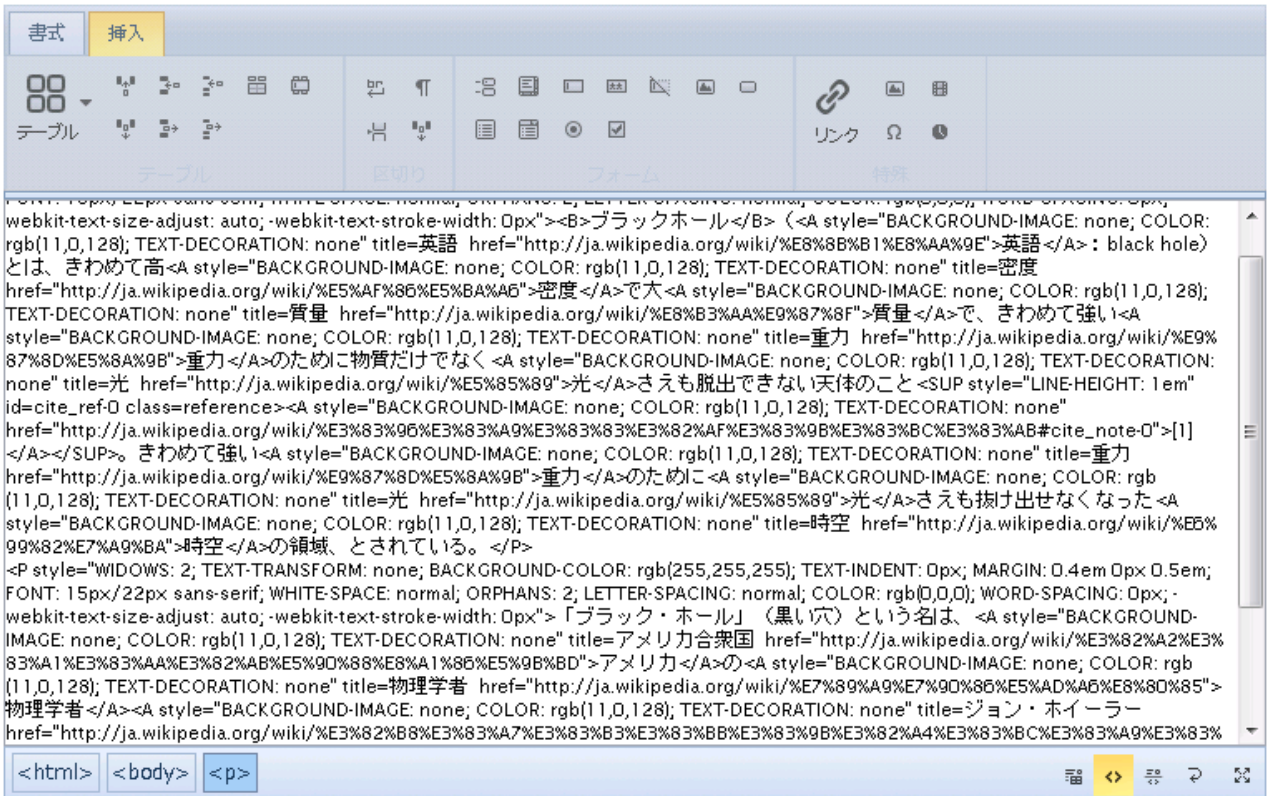
下の図に、**デザインビュー**のテキストエディタを示します。



● ソースビュー

このビューは、HTMLの記述と編集用のハンドコーディング環境を提供します。ソースビューは、手動でHTMLのマークアップを入力するユーザーに一般に使用されますが、ユーザーはリボンインターフェースを使用してHTMLタグをこのビューのコンテンツに適用することもできます。

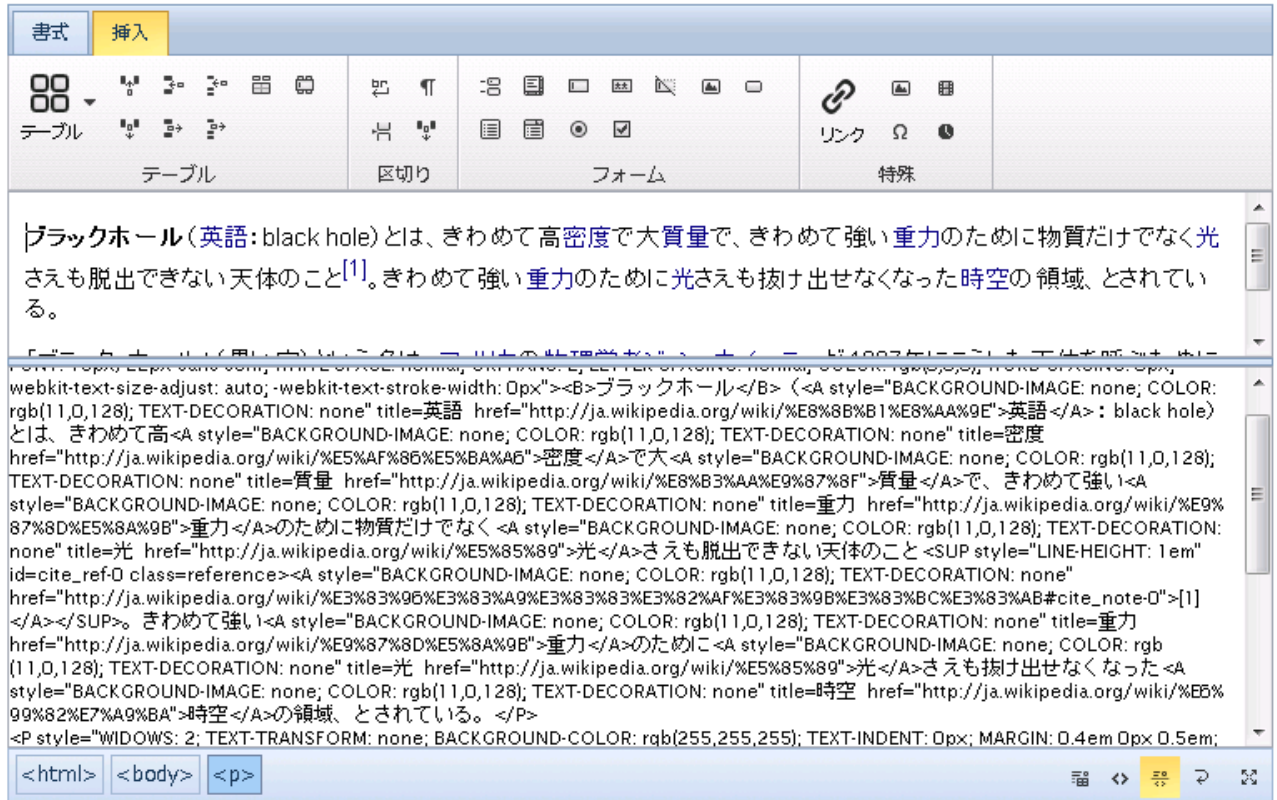
以下の画面に、ソースビューのテキストエディタを示します。



● 分割ビュー

このビューは、テキストエディタに**デザインビュー**と**ソースビュー**の両方を表示します。このビューが呼び出されると、エディタはテキストエディタを2つの垂直セクションに分割します。上部セクションは**デザインビュー**、下部セクションは**ソースビュー**を表示します。このビューは、マークアップを編集の際にコンテンツを即時にプレビュー表示できるため、便利です。

下の図に、**分割ビュー**のテキストエディタを示します。



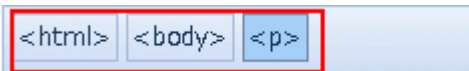
テキストエディタの初期ランタイムビューを設定するには、デザイン時に **EditorMode** プロパティを設定します。**EditorMode** プロパティは、WYSIWYG(デザインビュー)、Split(分割ビュー)、および Code(ソースビュー)の3つの設定の1つに設定できます。また、エンドユーザーは、エディタ下部のツールバー(**ツールバー**)を参照)を使用して、実行時にビューを選択することもできます。

テキストエディタに追加されたコンテンツが使用可能な画面スペースを超えると、スクロールバーが自動的に表示されます。

パスセクタ

パスセクタは、現在のカーソル位置に HTML タグ階層を表示します。現在選択されているタグは黄色でハイライト表示されます。

以下の画面は、**C1Editor** のパスセクタをハイライト表示します。








ユーザーは、パスセクタ内のタグを選択して、選択範囲を変更できます。たとえば、パスセクタが現在、3つのタグ、<body>、<p>、および <u> を表示していると仮定します。<u> は、黄色にハイライト表示され、段落内の下線を引いた単語である、現在の選択をマークします。<p> を選択すると、選択は段落全体を包含します。<body> を選択すると、ページ全体が選択されます。

ツールバー

ツールバーを使用すると、エンドユーザーは実行時に表示を切り替え、テキストの折り返しを有効にできます。5つのボタン(<デザインビュー>、<ソースビュー>、<分割ビュー>、<ワードラップ>、および <フルスクリーン>)を備えており、それらについて

Editor for ASP.NET Web Forms

下の表で説明します。

| ボタン | 名前 | 説明 |
|---|---------|---|
|  | デザインビュー | 〈デザインビュー〉ボタンをクリックすると、テキストエディタはデザインビューに切り替わります。ここで、ユーザーはコンテンツのリアルタイムプレビューを表示できます。デザインビューについての詳細は、「 テキストエディタ 」を参照してください。 |
|  | ソースビュー | 〈ソースビュー〉ボタンをクリックすると、テキストエディタはソースビューに切り替わります。ここで、ユーザーは独自の HTML のマークアップを記述できます。ソースビューについての詳細については、「 テキストエディタ 」を参照してください。 |
|  | 分割ビュー | 〈分割ビュー〉ボタンをクリックすると、テキストエディタは分割ビューに切り替わります。ここで、ユーザーはテキストエディタウィンドウに、デザインビューとソースビューの両方を表示できます。分割ビューについての詳細は、「 テキストエディタ 」を参照してください。 |
|  | ワードラップ | 〈ワードラップ〉ボタンをクリックすると、ソースコードドキュメントの右余白にソフトリターンが挿入されます。この機能が有効の場合、ユーザーは、左から右方向のスクロールを実行せずに、HTML を表示および編集できます。デザインビューでは、この機能は利用できません。 |
|  | フルスクリーン | 〈フルスクリーン〉ボタンをクリックすると、エディタで全画面表示と縮小画面表示が切り替わります。 |


以下の画面は、**C1Editor** のツールバーをハイライト表示します。



エディタのダイアログボックス

C1Editorコントロール内には、ユーザーが C1Editor ドキュメントの作成と編集に使用できるいくつかのダイアログボックスがあります。以下のトピックでは、**C1Editor**コントロールからアクセスできるダイアログボックスについて説明します。

[テンプレートの適用]ダイアログボックス

[**テンプレートの適用**]ダイアログボックスでは、ユーザーはドキュメントにテンプレートを選択、追加、削除できます。[**テンプレートの適用**]ダイアログボックスにアクセスするには、**C1Editor** の「**書式**」タブを選択して、〈**テンプレート**〉ボタン  をクリックします。

テンプレートの適用
✕

テンプレートの選択:
テンプレートプレビュー:

名前:
 説明:

名前:

説明:

選択の削除

現在のページをテンプレートとして保存

OK


キャンセル

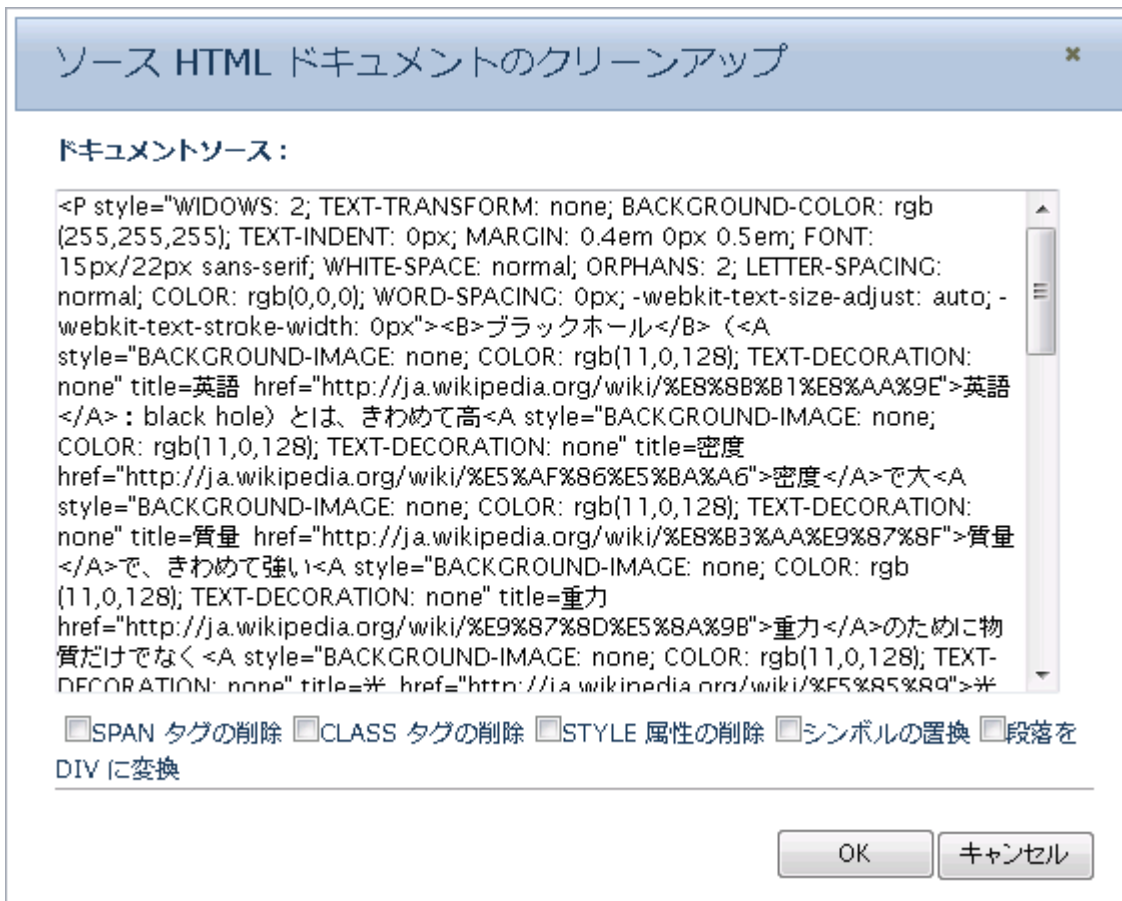
ドキュメント内の既存のテンプレートを使用するには、[テンプレートの選択]ボックスからテンプレートを選択して、〈OK〉をクリックします。

既存のテンプレートを削除するには、[テンプレートの選択]ボックスからテンプレートを選択して、〈選択の削除〉をクリックします。

現在のページをテンプレートとして保存するには、名前と説明フィールドに入力して〈現在のページをテンプレートとして保存〉をクリックします。

[ソース HTML ドキュメントのクリーンアップ]ダイアログボックス


[ソース HTML ドキュメントのクリーンアップ]ダイアログボックスでは、ユーザーは、ソース HTML ドキュメントから、不必要なタグとシンボルを削除(ある場合には、置換)できます。[ソース HTML ドキュメントのクリーンアップ]ダイアログボックスにアクセスするには、C1Editorの「書式」タブを選択して、〈クリーンアップ〉ボタン  をクリックします。



[ドキュメントソース]ペインは、ソース HTML ドキュメントのプレビューを提供します。[ドキュメントソース]ペインのすぐ下には、一連のチェックボックスがあり、それぞれ、ソースドキュメントから変更または削除できるさまざまな HTML 要素を示します。

ソースマークアップを変更または削除するには、チェックボックスを選択して、<OK>をクリックします。[ソース HTML ドキュメントのクリーンアップ]ダイアログボックスが閉じて、ドキュメントのソースの選択された要素が変更されます。

[検索と置換]ダイアログボックス

[検索と置換]ダイアログボックスでは、ユーザーはテキストを検索して、選択した場合は、別のテキストに置換します。[検索と置換]ダイアログボックスにアクセスするには、C1Editorの「書式」タブを選択して、<検索>ボタン  をクリックします。



検索と置換

検索 : text

置換 :

検索 置換

特定のテキストを検索するには、[検索]テキストボックスにテキストを入力して、<検索>をクリックします。

特定のテキストを置換するには、置換前のテキストを[検索]テキストボックスに入力し、置換後のテキストを[置換]テキストボックスに入力して、<置換>をクリックします。

[ハイパーリンクの挿入]ダイアログボックス

[ハイパーリンクの挿入]ダイアログボックスでは、ユーザーはハイパーリンクをドキュメントに挿入できます。[ハイパーリンクの挿入]ダイアログボックスを開くには、「挿入」タブを選択して、<リンク>ボタンをクリックします。

ハイパーリンクの挿入 ✕

アドレス:

URL
 アンカー
 電子メール
 ローカルファイル
 #anchor1 ▼

アイコンタイプ: テキスト 画像

表示文字列:

ターゲット: _blank ▼

CSS:


参照... アップロード

OK
キャンセル

下の表で、[ハイパーリンクの挿入]ダイアログボックスの各要素について説明します。

| 要素 | 説明 |
|-------------|--|
| アドレス | リンク先のパス。 |
| ラジオボタン | [ハイパーリンクの挿入]ダイアログボックスのラジオボタンを使用して、[URL]、[アンカー]、[電子メール]、および[ローカルファイル]の4つのリンクタイプから選択できます。アンカーを選択すると、ドロップダウンリストがアクティブ化して、リストからアンカー名を選択できます。 |
| 表示文字列 | リンクとして表示するテキスト。 |
| ターゲット | ターゲットはリンク先で開く領域です。_blank、_parent、_self、および_topの4つの領域から選択できます。 |
| Css | ハイパーリンクに適用する CSS スタイルの名前(ある場合)。 |
| 〈参照〉ボタン | 〈参照〉ボタンは、[アップロードするファイルの選択]ダイアログボックスを開きます。ここで、リンク先のハードドライブ上のファイルを選択できます。 |
| 〈アップロード〉ボタン | 〈アップロード〉ボタンは、[アップロードするファイルの選択]ダイアログボックスで選択したファイルを~/DialogUploadFolder ディレクトリにアップロードします。 |

[画像の挿入]／[画像の編集]ダイアログボックス

[画像の挿入]ダイアログボックスと[画像の編集]ダイアログボックスは、外観と機能がほぼ同じで、どちらも〈画像の参照〉ボタン  をクリックしてアクセスできます。画像が選択されていないときに〈画像の参照〉ボタンをクリックすると、[画像の挿入]ダイアログボックスが表示されます。一方、画像が C1Editor のテキストエディタで選択されているときに〈画像の参照〉ボタンをクリックすると、[画像の編集]ダイアログボックスが表示されます。

画像ブラウザ
✕

画像 SRC:

画像の代替テキスト:

画像の幅: ピクセル

画像の高さ: ピクセル


CSS テキスト:

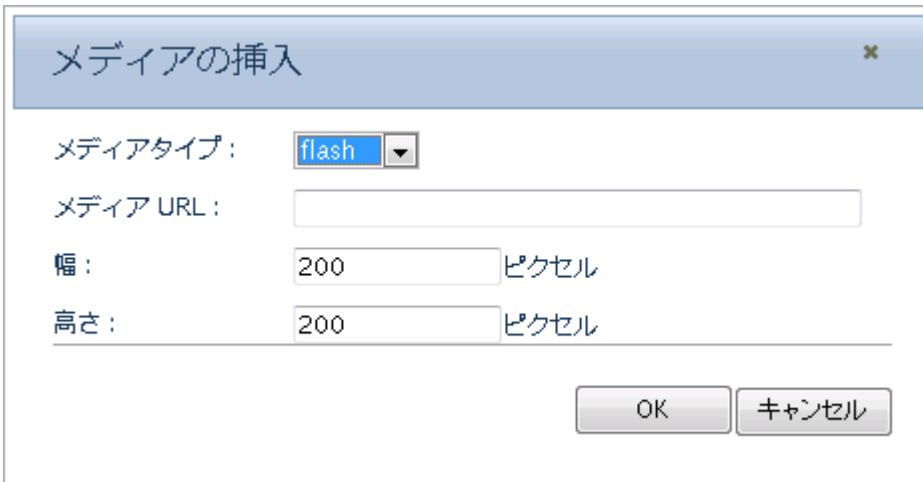
ユーザーは、以下の各フィールドに情報を追加できます。

| 名前 | 説明 |
|-----------|-------------------------------|
| 画像 SRC | 画像の URL パス |
| 画像の代替テキスト | 何らかの理由で、画像を表示できないときに表示するテキスト |
| 画像の幅 | 画像の幅(ピクセル) |
| 画像の高さ | 画像の高さ(ピクセル) |
| CSS テキスト | グラフィックに適用する CSS スタイルの名前(ある場合) |

画像の場所を指定するには、<参照>をクリックします。その画像を[画像の選択]ボックスに追加するには、<アップロード>をクリックします。

[メディアの挿入]ダイアログボックス


[メディアの挿入]ダイアログボックスを使用して、ユーザーはメディアファイルをドキュメントに挿入できます。[メディアの挿入]ダイアログボックスを開くには、「挿入」タブを選択して、<メディア>ボタン  をクリックします。

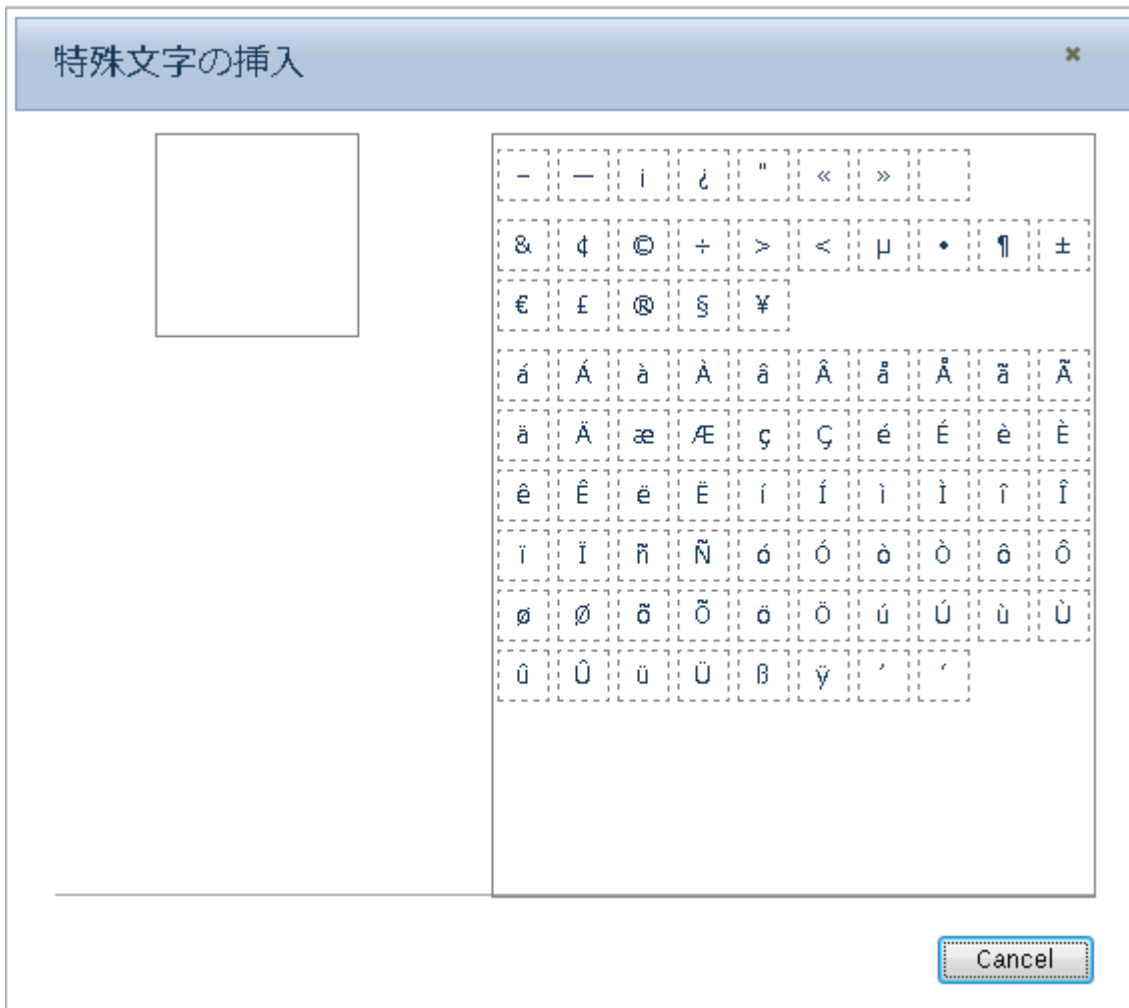


下の表で、[メディアの挿入]ダイアログボックスの各要素について説明します。

| 名前 | 説明 |
|----------|--|
| メディアタイプ | flash、video、applet、other の4種類から選択できます。 |
| メディア URL | メディアファイルへの URL パス |
| 幅 | メディアファイルの幅 |
| 高さ | メディアファイルの高さ |

[特殊文字の挿入]ダイアログボックス

[特殊文字の挿入]ダイアログボックスでは、ユーザーは特殊文字をドキュメントに挿入できます。[特殊文字の挿入]ダイアログボックスを開くには、「挿入」タブを選択して、〈特殊文字の挿入〉ボタン  をクリックします。



[特殊文字の挿入]ダイアログボックスの左側には、プレビューウィンドウがあり、ユーザーは特殊文字とその名前をプレビューできます。[特殊文字の挿入]ダイアログボックスの右側には、特殊文字のリストがあり、[分離記号]、[Symbols]、[発音区別符号]の3つのセクションに分割されています。

特殊文字をプレビューするには、カーソルをその文字の上に置きます。プレビューウィンドウに、特殊文字の拡大画像と特殊文字の名前が表示されます。

特殊文字を選択してドキュメントに挿入するには、その文字をクリックします。

[テーブルの挿入]／[テーブルの編集]ダイアログボックス

[テーブルの挿入]と[テーブルの編集]ダイアログボックスは、外観がほぼ同じですが、各ダイアログボックスの機能は少し異なります。[テーブルの挿入]ダイアログボックスは、テーブルをドキュメントに追加するのに対し、[テーブルの編集]ダイアログボックスは、既存のテーブルの編集のみに使用できます。各ダイアログボックスは、同じ入力フィールドを保持し、それぞれコードを使用せずにテーブルの属性を調整する能力を備えています。

[テーブルの挿入]ダイアログボックスを開くには、「挿入」タブを選択して、[テーブル]ドロップダウン矢印をクリックして、「挿入」をクリックします。[テーブルの挿入]ダイアログボックスが開き、次のような図になります。

テーブルの挿入
✕

行数:

列数:

テーブルの幅: ピクセル

テーブルの高さ: ピクセル

枠線の太さ:

セル内の余白:

セル間のスペース:

CSS テキスト:

背景色: ...

[**テーブルの編集**]ダイアログボックスを開くには、「挿入」タブをクリックしてテーブルを選択し、[**テーブル**]ドロップダウン矢印をクリックして、<編集>をクリックします。[**テーブルの編集**]ダイアログボックスが開き、選択したテーブルの現在の定義が入力フィールドに表示され、次のような画面になります。

テーブルの編集
✕

行数:

列数:

テーブルの幅: ピクセル

テーブルの高さ: ピクセル

枠線の太さ:

セル内の余白:

セル間のスペース:

CSS テキスト:


背景色: ...

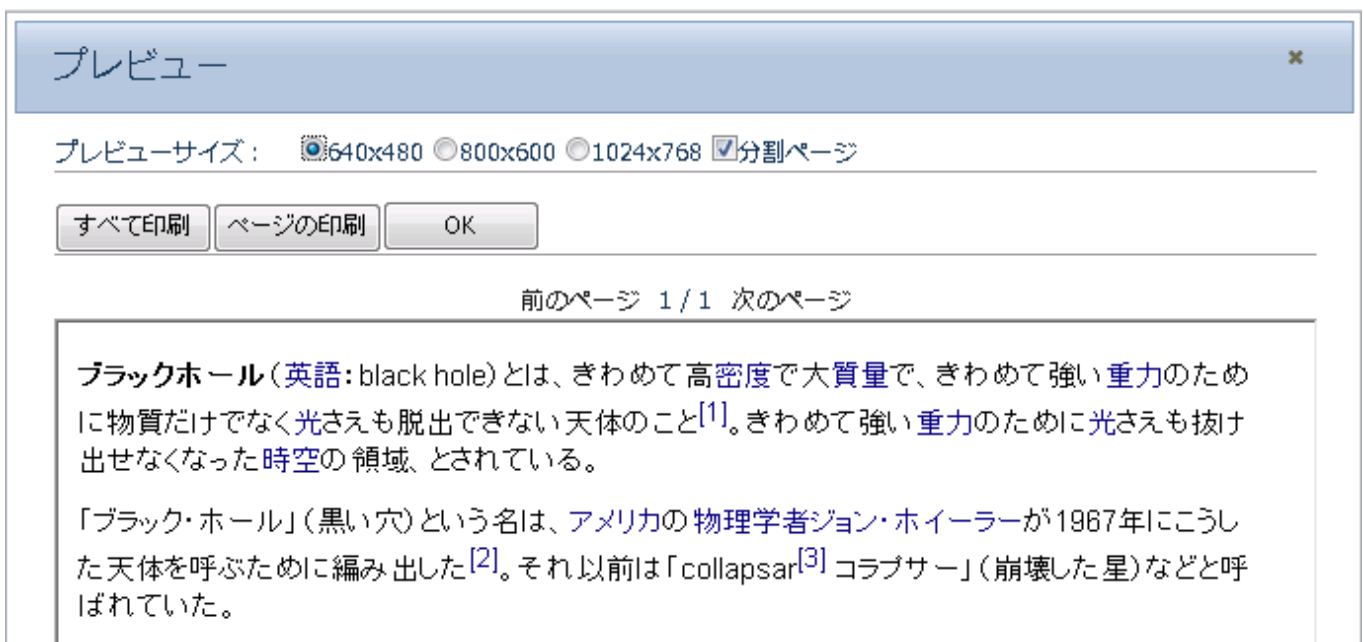
下の表で、[**テーブルの挿入**]と[**テーブルの編集**]ダイアログボックスの各フィールドについて説明します。

| フィールド | 説明 |
|---------|----------------|
| 行数 | テーブルの行数 |
| 列数 | テーブルの列数 |
| テーブルの幅 | テーブルの幅(ピクセル) |
| テーブルの高さ | テーブルの高さ(ピクセル) |
| 枠線の太さ | 表の枠線の太さを指定します。 |

| | |
|----------|---|
| セル内の余白 | 各セル枠とセルコンテンツの間のスペース量(ピクセル) |
| セル間のスペース | セルとテーブルの間のスペース量(ピクセル) |
| CSS テキスト | テーブルに関連付けられた CSS スタイル |
| 背景色 | テーブルの背景色。この色は、手動で入力するか、ダイアログボックスから選択できます。ダイアログボックスを開くには、〈...〉ボタンをクリックします。 |

[プレビュー]ダイアログボックス

[プレビュー]ダイアログボックスでは、ユーザーはドキュメントをプレビューして印刷できます。[プレビュー]ダイアログボックスにアクセスするには、C1Editorの「書式」タブを選択して、〈プレビュー〉ボタン  をクリックします。



ユーザーは、ドキュメントを印刷する前に、[プレビュー]ダイアログボックス内でそのプレビューを表示できます。ラジオボタンを選択して、3種類の解像度(640 x 480、800 x 600、および 1024 x 768)でのプレビュー表示を選択できます。


デフォルトでは、[分割ページ]オプションが選択されます。これが選択されている場合、プレビューするドキュメントは、ページ単位で表示されます。ユーザーは、〈前のページ〉と〈次のページ〉ボタンをクリックすると、プレビューしているページを変更できます。〈前のページ〉と〈次のページ〉ボタンの間にあるページインジケータに、プレビューするページ番号、およびドキュメントの合計ページ数が表示されます。

[分割ページ]オプションが選択されていない場合、プレビューウィンドウには、ドキュメント全体が表示されます。[分割ページ]オプションが OFF の場合、ドキュメントのページ数が表示されないことに注意してください。

[プレビュー]ダイアログボックスには、[ページの印刷]と[すべて印刷]の2つの印刷オプションがあります。[ページの印刷]をクリックすると、現在のページが印刷されます。[すべて印刷]をクリックすると、ドキュメント内の全ページが印刷されます。

[プレビュー]ダイアログボックス閉じるには、〈閉じる〉をクリックします。


[背景色の設定]ダイアログボックス

[背景色の設定]ダイアログボックスでは、ユーザーはテキストの選択した部分の背景色を変更できます。[背景色の設定]ダイアログボックスにアクセスするには、C1Editorの「書式」タブを選択して、〈背景色〉ボタン  をクリックします。



[背景色の設定]ダイアログボックスの1列目は、色スペクトルの一部分の色グラデーションを表示します。これを使って、ユーザーは同じ色のさまざまな陰影から選択できます。ユーザーは、虹色スペクトル(2番目の列)の色を選択して、グラデーションの色を変更できます。ユーザーがスペクトルの異なる部分を選択すると、1番目の列のグラデーションがユーザーの選択を反映するように変化して、ユーザーは背景色を選択できます。ウィンドウの左端に、選択した色が表示され、[選択した色]テキストボックスに、その16進値が表示されます。〈OK〉をクリックすると、変更がドキュメントに適用されます。

[前景色の設定]ダイアログボックス

[前景色の設定]ダイアログボックスでは、ユーザーはドキュメントの前景色を変更できます。[前景色の設定]ダイアログボックスにアクセスするには、C1Editorの「書式」タブを選択して、〈フォント色〉ボタン  をクリックします。



[前景色の設定]ダイアログボックスの1列目は、色スペクトルの一部分の色グラデーションを表示します。これを使って、ユーザーは同じ色のさまざまな陰影から選択できます。ユーザーは、虹色スペクトル(2番目の列)の色を選択して、グラデーション

の色を変更できます。ユーザーがスペクトルの異なる部分を選択すると、1番目の列のグラデーションがユーザーの選択を反映するように変化して、ユーザーは背景色を選択できます。ウィンドウの左端に、選択した色が表示され、[選択した色]テキストボックスに、その16進値が表示されます。〈OK〉をクリックすると、変更がドキュメントに適用されます。

[スペルチェッカ]ダイアログボックス

[スペルチェッカ]ダイアログボックスは、スペルチェッカがスペルミス、誤字、または現在ディクショナリに入っていない単語を検出した場合にのみ表示されます。スペルチェックを実行するには、「書式」タブを選択して、〈スペルチェック〉をクリックします。

[スペルチェッカ]ダイアログボックスには、2つのダイアログボックスと1つのドロップダウンリストがあります。[辞書にない単語]テキストボックスには、スペルチェッカで問題になった単語が表示されます。[修正候補]テキストボックスと[修正候補一覧]ドロップダウンリストは、相互に関連しています。[修正候補]テキストボックスには、ユーザーが〈修正〉または〈すべて修正〉をクリックしたときに適用される単語が含まれます。[修正候補一覧]ドロップダウンリストには、その他の置換の候補が含まれています。[修正候補一覧]ドロップダウンリストから新しい単語を選択すると、その単語が[修正候補]テキストボックスに追加され、元そこにあった単語と置き換わります。

スペルミスの単語を[修正候補]ダイアログボックスの変更候補に修正するには、〈修正〉をクリックします。スペルミスの単語のすべてのインスタンスを[修正候補]ダイアログボックスの1つに修正するには、〈すべて修正〉をクリックします。

場合によっては、[辞書にない単語]テキストボックスの単語を修正したくない場合があります。現在の候補を無視するには、〈無視〉をクリックします。その修正候補のすべてのインスタンスを無視するには、〈すべて無視〉をクリックします。

[タグの検証]ダイアログボックス

[タグの検証]ダイアログボックスでは、ユーザーは、追加または変更を実際の HTML マークアップタグに入力せずに、HTML 属性を表示および編集できます。ユーザーは、デザインビューまたは分割ビューで作業しているときにのみ、この機能にアクセスできます。

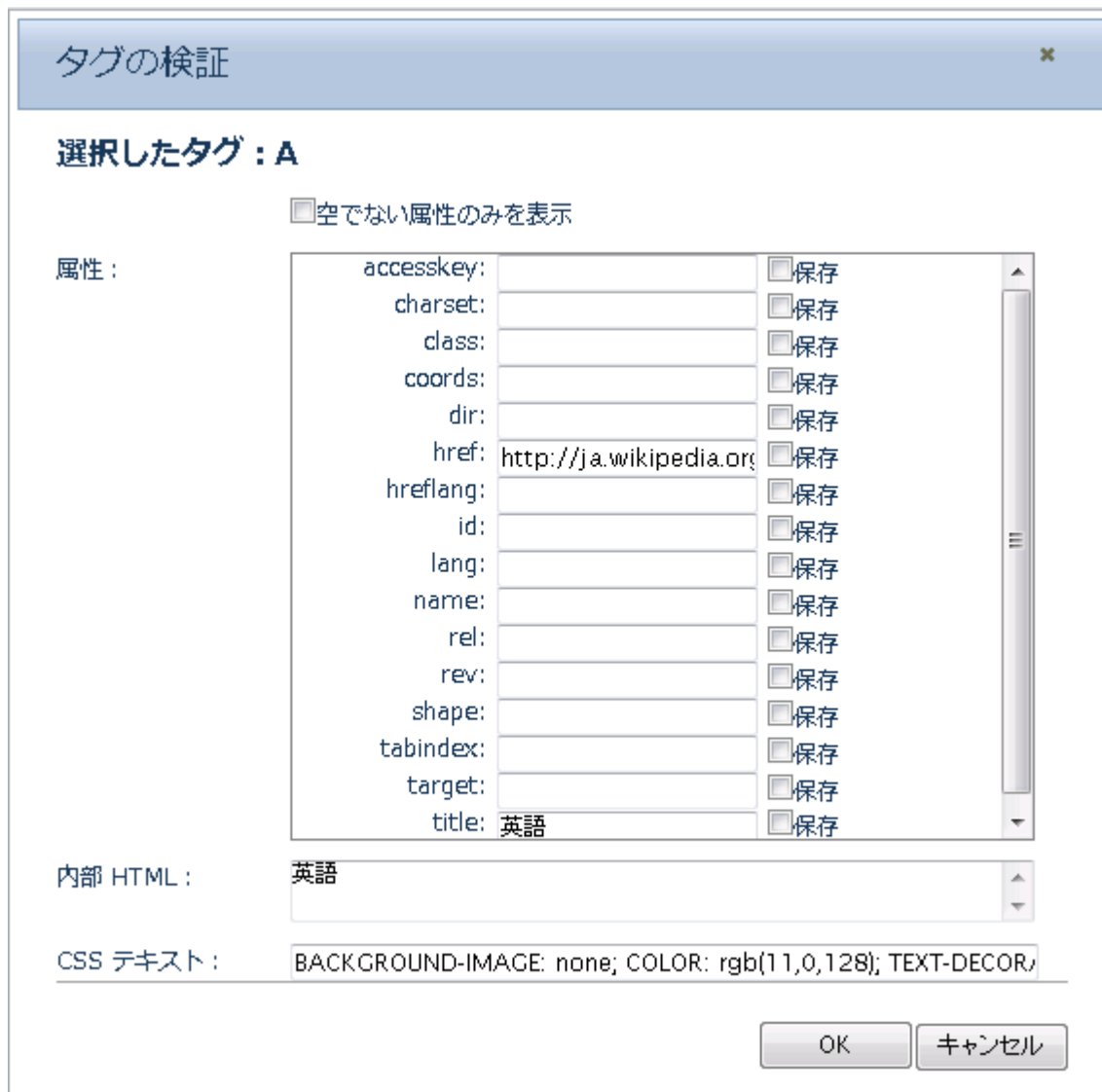
[タグの検証]ダイアログボックスにアクセスするには、以下の手順を実行します。

1. C1Editor のツールバーの〈デザインビュー〉ボタン  をクリックします。

テキストエディタで、検証対象の要素の上にカーソルを置きます。

2. C1Editor の「書式」タブを選択して、〈タグの検証〉ボタン  をクリックします。

[タグの検証]ダイアログボックスが開きます。



開くと、[タグの検証]ダイアログボックスには、ユーザーが選択したタグに関連付けられた属性のリストが表示されます。たとえば、 タグは、クラス、ポイントサイズ、および色などの属性を表示します。一方、<TD> タグは、背景色、列スパン、行スパンなどの属性を表示します。ユーザーは属性を変更、追加、または削除できます。属性を変更または追加するには、情報を属性のテキストボックスに入力し、[保存]ボックスを選択して、<OK>をクリックします。

デフォルトでは、属性が空の場合でも、タグに関連付けられたすべてのタイプの属性が表示されます。空の属性ボックスをビューから非表示にするには、[空でない属性のみを表示]ボックスを選択します。

[内部 HTML]ボックスは、HTML タグ内にネストされたテキストを表示します。このテキストを変更するには、テキストをボックスに入力するだけです。

[CSS テキスト]ボックスに、この HTML タグに関連付けられた CSS スタイルの名前が表示されます。CSS スタイルが適用されていない場合、このボックスは空となります。

キーボードショートカット

C1Editor コントロールでは、ユーザーはキーボードショートカットを使用して、いくつかの機能を実行できます。下の表で、キーボードショートカットからアクセスできる機能について説明します。

| 機能 | キーボードショートカット |
|-----|--------------|
| コピー | [Ctrl]+[C] |

| | |
|-------|--------------|
| 切り取り | [Ctrl] + [X] |
| 貼り付け | [Ctrl] + [V] |
| すべて選択 | [Ctrl] + [A] |
| 太字 | [Ctrl] + [B] |
| 斜体 | [Ctrl] + [I] |
| 下線 | [Ctrl] + [U] |
| 元に戻す | [Ctrl] + [Z] |
| やり直し | [Ctrl] + [Y] |

C1Editor CSS セレクタ

CSS スタイルを使用して **C1Editor** の要素をスタイル設定し、その外観を真に独特のものにすることができます。カスタマイズ処理を簡素化するために、ComponentOne for ASP.NET Web Forms には、その6種類の組み込みテーマごとに CSS セレクタが組み込まれています。

背景、テキスト、フォント、枠、輪郭、マージン、埋め込み、リスト、表などの一般的な CSS プロパティを該当する CSS セレクタに適用できます。

一般に使用される個々の CSS セレクタとグループ化された CSS セレクタのリストについては、プロジェクトの **C1Editor** コントロールを選択し、Visual Studio プロパティウィンドウで **CssClass** プロパティの横にあるドロップダウンリストを表示します。**C1Editor** CSS セレクタは、下図のように wijmo-wijeditor から開始します。

```
wijmo-wijeditor  
wijmo-wijeditor-cleanupdlg  
wijmo-wijeditor-cleanupdlg-actions  
wijmo-wijeditor-cleanupdlg-caption  
wijmo-wijeditor-cleanupdlg-document  
wijmo-wijeditor-codedlg-source  
wijmo-wijeditor-codedlg-sourcelabel
```

個々の CSS セレクタをグループとして組み合わせ、CSS セレクタをより具体的かつ強力なものにすることができます。

クライアント側の機能

Editor for ASP.NET Web Forms コントロールには、非常に充実したクライアント側オブジェクトモデルがあります。そのメンバは、ほとんどがサーバー側コントロールのメンバと同じです。

C1Editor コントロールが表示されると、クライアント側コントロールのインスタンスが自動的に生成されます。これは、サーバーにポストバックしなくても、**C1Editor** コントロールのプロパティやメソッドにアクセスできるということです。

クライアント側コードを使用すれば、時間をかけて Web サーバーに情報を送信しなくても、Web ページに多くの機能を実装できます。そのため、クライアント側オブジェクトモデルを使用することで、Web サイトの効率を高めることができます。

クライアント側イベント

Editor for ASP.NET Web Forms には、複数のクライアント側イベントが含まれています。それらを利用すれば、無効な文字の入力などの処理が行われたときに、**C1Editor** コントロールを操作できます。

クライアント側イベントの表にリストされたサーバー側プロパティを使用して、特定のクライアント側イベントに反応する JavaScript 関数の名前を指定できます。たとえば、**invalidInput** という JavaScript 関数を割り当てて、無効な文字が入力されたときに応答させるには、OnClientInvalidInput プロパティを **invalidInput** に設定します。

下の表に、クライアントスクリプトで使用できるイベントを示します。これらのプロパティはサーバー側で定義されていますが、実際のイベントや各 JavaScript 関数用に宣言する名前はクライアント側で定義されます。

| イベントのサーバー側プロパティ名 | イベント名 | 説明 |
|--|---------------------|-------------------------------|
| OnClientInitialized | initialized | コントロールが初期化された後に発生します。 |
| OnClientInitializing | initializing | コントロールが初期化される前に発生します。 |
| OnClientInvalidInput | invalidInput | 無効な文字が入力されたときに発生します。 |
| OnClientTextChanged | textChanged | 入力テキストが変更されたときに発生します。 |
| OnClientTriggerMouseDown | triggerMouseDown | トリガーボタン上でマウスボタンが押されたときに発生します。 |
| OnClientTriggerMouseUp | triggerMouseUp | トリガーボタン上でマウスボタンを離したときに発生します。 |
| OnClientDateChanged (InputDate only) | dateChanged | 日付値を変更した後に発生します。 |
| OnClientValueBoundsExceeded (InputNumber only) | valueBoundsExceeded | 入力値が有効範囲を超えたときに発生します。 |
| OnClientValueChanged (InputNumber only) | valueChanged | 値を変更した後に発生します。 |

タスク別ヘルプ

タスク別ヘルプは、Visual Studio のプログラミングに精通しているユーザーを対象としています。ヘルプに記述された手順に従うことによって、**Editor for ASP.NET Web Forms** のさまざまな機能を実演するプロジェクトを作成して、**Editor for ASP.NET Web Forms** の用途を理解することができます。

タスク別ヘルプの各トピックでは、新しい ASP.NET プロジェクトをすでに作成していることも前提としています。

簡単なエディタツールバーの使用

C1Editor コントロールは、次のボタンを備える編集ツールバーの簡略版をサポートします。〈太字〉、〈斜体〉、〈リンク〉、〈ブロック引用〉、〈取り消し線〉、〈日付と時刻〉、〈画像の参照〉、〈番号付きリスト〉、〈箇条書きリスト〉、および〈コードの挿入〉。



この機能を利用するには、単にスクリプトで **mode** プロパティを「**Simple**」に設定します。

ソースビュー

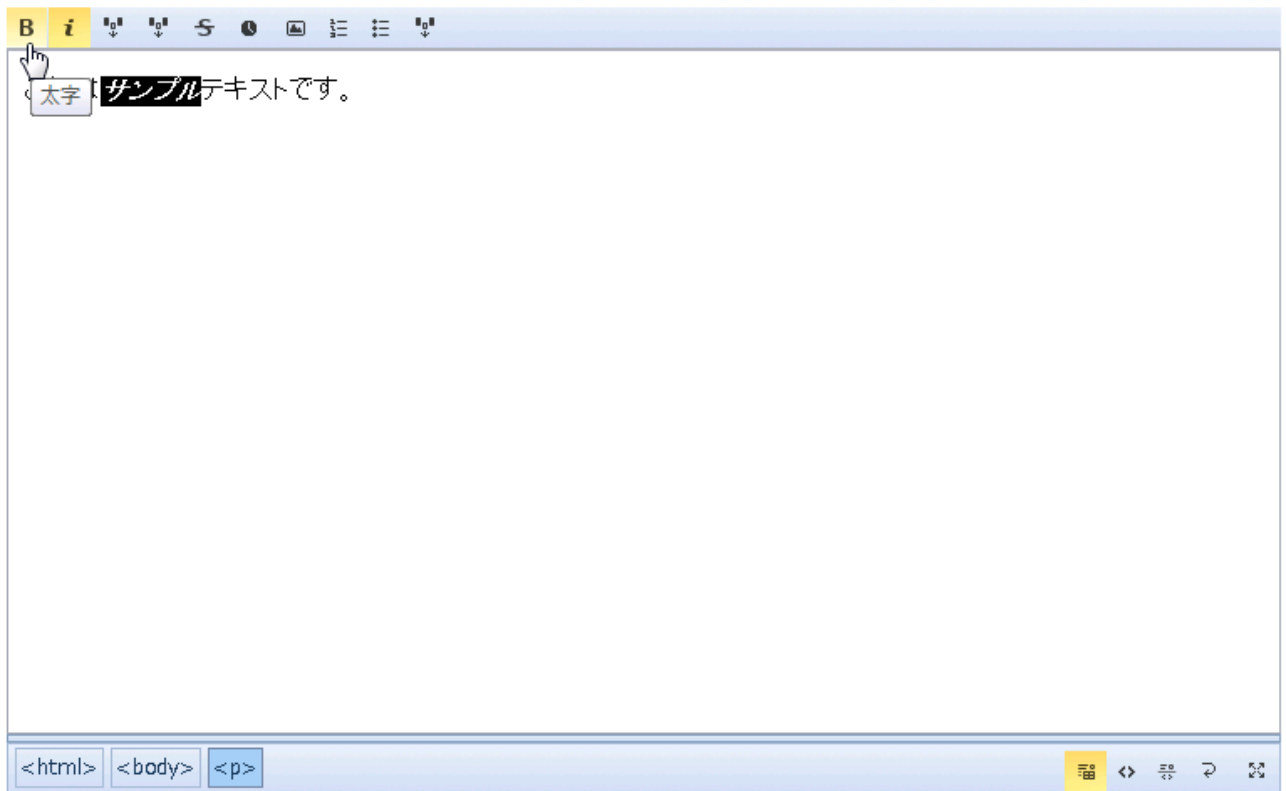
```
<c1:C1Editor ID="C1Editor1" runat="server" Mode="Simple" />
```

1. ASP.NET Web アプリケーションを作成します。
2. ページのメインコンテンツに **C1Editor** コントロールを追加します。
3. Visual Studio のメニューから、[表示]→[プロパティ ウィンドウ]を選択します。
4. **C1Editor** コントロールが選択され、**Mode** プロパティが **Simple** に設定されていることを確認します。マークアップは次のように表示されます。

ソースビュー

```
<c1:C1Editor ID="C1Editor1" runat="server" Mode="Simple"/>
```

5. [F5]を押して、アプリケーションを実行します。簡単なツールバーを使用して、テキストと書式を入力します。



C1EditorExtender による BBCode の使用

C1Editor コントロールは、メッセージボード内のポストの書式設定に使用するマークアップ言語である、**BBCode** (Bulletin Board Code の略) をサポートします。この機能を利用するには、単に **Mode** プロパティを設定します。

ソースビュー

```
<c1:C1Editor ID="C1Editor1" runat="server" Mode="Bbcode" />
```

1. ASP.NET Web アプリケーションを作成します。
2. ページのメインコンテンツに **C1Editor** コントロールを追加します。
3. Visual Studio のメニューから、[表示] → [プロパティウィンドウ] を選択します。
4. **C1Editor** コントロールが選択され、**Mode** プロパティが **Simple** に設定されていることを確認します。
5. **Text** プロパティの横に、「[B]サンプルテキスト[/B]。[URL=https://www.grapecity.co.jp/developer]Grapecity Web サイト[/URL]をご参照ください。」を入力します。

マークアップは次のように表示されます。

ソースビュー

```
<c1:C1Editor ID="C1Editor1" runat="server" Mode="Bbcode"
  Text="This is some [B]sample text[/B].
  You can visit [URL=https://www.grapecity.co.jp/developer]C-ONE[/URL]." />
```

6. [F5] を押して、アプリケーションを実行します。エディタが **BBCode** で書式設定されたコンテンツを表示します。

